



高校中退者等の再チャレンジ支援事業

PROJECT REPORT

from October 2014 to March 2015



2015年3月

一般財団法人ヒューマンライツ教育財団

ごあいさつ

今年、「フリースペース マナビバ！」の取り組みがスタートしたことは私にとって大変意味のある出来事です。もう何年も前から高校を中退した子どもたちの次の進路をどのようにサポートをするのかは大きな課題でした。通信制高校のサテライト事業や高校卒業認定試験の受験支援などが出来ればいいのですが、大変費用のかかることになり、貧困や学力不足を抱える若者にとって大学進学や就職につなげるために高校卒業資格を取得するということが一度高校を中退した者にとって大変、厳しい状況となっています。

そんな中で、もう少しゆっくりと本当に一人ひとりの思いに寄り添うことで、こうでなければならないということではなく、長い人生の中で立ち止まって自分自身を考えるサポートが出来れば「マナビバ」の意味は大きいものだと考えます。

様々な困難を抱える若者が少しの応援で自分を取り戻し、どんな進路を選ぶにしても立派に一人の社会人として生活の糧を得ながら良かったと思える人生を選択できることが出来れば私たちの事業は立派に成功したと思います。若者たちとのふれあいの中で共に学び共に考えることが出来る「マナビバ」の取り組みを少しでも長く、自立した取り組みとして進めて行けるようスタッフ一同、努力したいとおもいます。これからも私たちの取り組みに対しご支援、ご指導いただきますようお願い申し上げます。これからも私たちの取り組みに対しご支援、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月

一般財団法人 ヒューマンライツ教育財団

理事 寺本良弘

目次

1. 全体概要

- | | |
|--------------|-------|
| (1) 事業の背景と目的 | p5-p7 |
| (2) 事業概要 | p8-p9 |
| (3) 実施体制 | p10 |
| (4) 年間スケジュール | p11 |

2. 取組内容

- | | |
|-------------------------|---------|
| (1) 支援ネットワークの新規構築 | p12-p13 |
| (2) 居場所の開放（フリースペースマナビバ） | p14-p18 |

3. 対象者の反応と変化

- | | |
|----------|---------|
| (1) ケース例 | p19-p20 |
|----------|---------|

4. 成果

- | | |
|-----------|---------|
| (1) アンケート | p21-p22 |
| (2) 成果と考察 | p23 |

5. 新年度に向けての課題と展望

- | | |
|---------------|---------|
| 新年度に向けての課題と展望 | p24-p25 |
| 参考資料 | p26-p37 |

1. 全体概要

(1) 事業の背景と目的

現在、西成北西部地域では中学校におけるひとり親家庭率がおおむね 3 割、就学援助率がおおむね 5 割、生活保護家庭が 2 割となっています。(*1)大阪府全域の高校中退率は 2.4%(*2)と全国ワースト（全国の高校中退率平均 1.5%）ですが、その中でも西成区民の普通科高校誘致運動 4 万人の署名を受け、昭和 49 年に開校した西成北西部地域の唯一の公立高校、西成高等学校においては、卒業までにおよそ 2～3 割程度の生徒が中退しているという突出した状況になっています。

この中退率の高さの原因としては、直接的な経済理由（授業料や教材費が払えない等）で学校に通い続けることを断念せざるを得なかったケースも考えられますが、幼い頃からの生活習慣や学習習慣の積み重ねができていないこと、コミュニケーション力の不足、保護者の教育に対する関心の低さなど、家庭の貧困に因る間接的な影響を受け、中途退学を余儀なく選択した子どもたちも多いと予想されます。

さらに問題なのは、そのような中退者のその後の進路を、高校側も行政側も、すべて把握できておらず、全容がはっきりしていないという実態です。平成 24 年度の大阪府中途退学者等の状況によると、高校中退者の半数以上（52.4%）が 1 年次であり、中退後の動向は「学習継続」が 16.7%、「働く」が 71.3%、「その他」が 12.1%となっています(*3)。このように一定の動向は把握されているように見えますが、これらの動向は中退時のものであり、実際にどのような進路を選択したかは明らかではありません。

中退者の 7 割は「働く」という意向を持っていますが、現在日本社会においては、アルバイト就労でさえ、高卒以上の学歴を求められます。高校中退者の選択肢というものは非常に限られます。中退者の多くが、社会から孤立し、自立した生活を送ることが困難になり、引きこもり生活や生活保護受給へと結びついていることが想像されます。いわゆる「貧困の連鎖」が、この西成北西部地域においても多く生まれています。

この地域における「貧困の連鎖」予防策の一つとして、生活実態を踏まえた高校中退者の進路選択や社会とつながる支援体制を整えることが求められています。

一般財団法人ヒューマンライツ教育財団は 1993 年の設立以来、さまざまな人権問題の 1 つとして「教育」をキーワードに各事業を展開してきました。事業の 1 つの大きな柱は「奨学金」ですが、そのほかにも「学習支援事業」として“家庭教育学級事業”や“自学自習力向上事業（カメさん塾）”、「情報リテラシー支援事業」として“電遊サポートセンター事業”などを実施してきました。2011～2013 年度にかけては公益法人改革に伴う、当財団のありかたを検討するため、具体的な事業実施は「奨学金」と「人権教育活動支援助成」にとどまりましたが、一般財団への移行も完了し、2014 年度からは新たなスタートを切りました。その新たな 1 つの柱として、2014 年度 10 月より、「高校中退者の再チャレンジ支援事業」への取り組みをスタートさせました。

当財団が継続して参加する「西成区北西部地区学校支援協議会」や「教育サポート七校

区連絡会」などでは、中学生の学力支援を図ることを目的とした「放課後学習支援ボランティア派遣事業」や小学生を中心とした職業体験「プレジョブ事業」などの支援に取り組んでいます。そのケース会議の中で、「卒業生が高校を中退して中学校に顔を出すのだが、支援方策がみあたらない」「高校生になると地域のかかわりが難しい」という声が聞かれるようになりました。定期的な地域の中学校や西成高校との会合においても、近年、高校中退者のサポートは、大きな課題となっています。

当財団の連携団体である、A¹ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）では、2014年度より大阪府教育委員会の委託を受け、「キャリア教育支援事業」の一環として西成高校にキャリア教育支援コーディネーターを派遣してきました。そこで教師と情報共有をしたり、意見交換をしたりする中で、「学校側も中退者の動向を案じているが、在籍している生徒の指導で手いっぱい、どうしても中退者の支援まで手が回らない」という声を耳にしました。また、無事卒業し就職できた者についても、大半が早期（3年以内）に離職し、その後の足取りがつかめないという問題点も挙げられました。

就職コーディネーターの使い方

毎週月・水・金曜日
時間：放課後
場所：進路指導室
気軽にきてね。

就職コーディネーターは
・進路の相談
・人生相談
・履歴書・自己PRの書き方
・面接練習
など、色々なことをしています。
樺み多きみなさんをピーンと受け止めて、みなさんのこれからのことをいっしょに考えます。

西成高校で活動しているキャリア教育支援コーディネーターは主に卒業年次生の就職支援を行っています。

高校中退者、高卒後早期離職者に対する支援が必要なことは前述した通りですが、現在、学校はその機能を担うだけの余裕を持ち合せていません。また、地域も中学校卒業後は本人との接点を模索している状況です。

学力保障に関していえば、従来、当財団も含め、様々な支援団体が行う「学習支援」活動は、小学生や中学生を対象としたものが大半でした。高校生年代、特に高校を中退した若者に対する学習支援は、塾やサポート校など有償のものがほとんどで、生活困窮家庭の若者にとっては「学びたくても学べない」状況、すなわち、一旦高校生活をリタイアしてしまうと、再チャレンジが許されない状況といえます。高校中退者支援を主な活動として行っているNPO団体やフリースクール等の支援機関もありますが、そこにたどり着くまでの社会的つながりを持たない若者には、支援の手が行き届いていないのが現状です。また、たどり着いたとしても、生活保護受給世帯に暮らす若者にとって、電車賃を払って支援機関まで通うということは、よほどのモチベーションや保護者の理解がなければ難しいことです。

そこで本事業では地域の学校や就労支援機関と連携して、高校中退者あるいは高卒後早期離職者の支援ネットワークの新規構築を目指しました。それに伴い、相談だけに留まらない各種サポートを即日開始できる「居場所」としてフリースペースを開設しました。学校や、職場からドロップアウトしたために、どこにも居場所がなく、家にひきこもったり、街を徘徊したりしている若者が、気軽に立ち寄れて相談できる、さらには学習や就職や生活など、困り事を解決するためのサポートが得られる場所として、運営をスタートしました。

*1 当財団調べ

*2 平成 25 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」文部科学省

*3 平成 25 年度「府立高等学校（全日制）における中途退学および不登校の状況」

大阪府教育委員会

(2) 事業概要

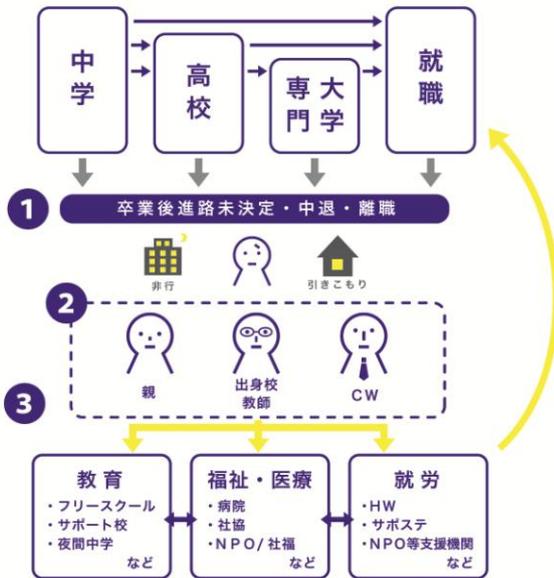
本事業では、地域の学校や就労支援機関と連携して、高校中退者あるいは高卒後早期離職者の支援ネットワークを新たに構築しました。西成地区において青少年支援活動を長年行ってきた一般財団法人ヒューマンライツ教育財団と、地区の学校、学校支援協議会、そして地域職業訓練センター（A¹ワーク創造館）が連携し、該当する若者（高校中退後あるいは離職後、定職に就いていない者）の情報を共有、当事者とコンタクトを取りました。

そこで接点をもった、高校中退後（または離職後、定職に就いていない者）家に引きこもりがちになっている若者や、居場所がない若者に対して「フリースペース マナビバ！」を新規開設し、継続運営を行いました。「フリースペース マナビバ！」では、当事者のニーズや生活の実態を把握し、必要な支援メニューを構築しました。具体的には、学習支援、進路（再入学）支援、就職支援、生活支援等、各種サポートを展開しました。

若者が、何か困った時に、相談できる、頼れる大人がいるという環境、さらにその場所が自分の住む地域にあるということは、若者にとって最大のセーフティネットになり得るという考えのもと、フリースペースの運営を進めてきました。最大の特色として、そのセーフティネットを、行政・民間協働で構築したことにより、地域に住む高校中退者の自立に向けた包括的・継続的な支援を行うことが可能となりました。

また、ドロップアウトした直後のタイミングで早期にキャッチする事で、家に引きこもってしまう前に、即時サポートを開始できる環境を整えたことも、大きな特色であるといえます。

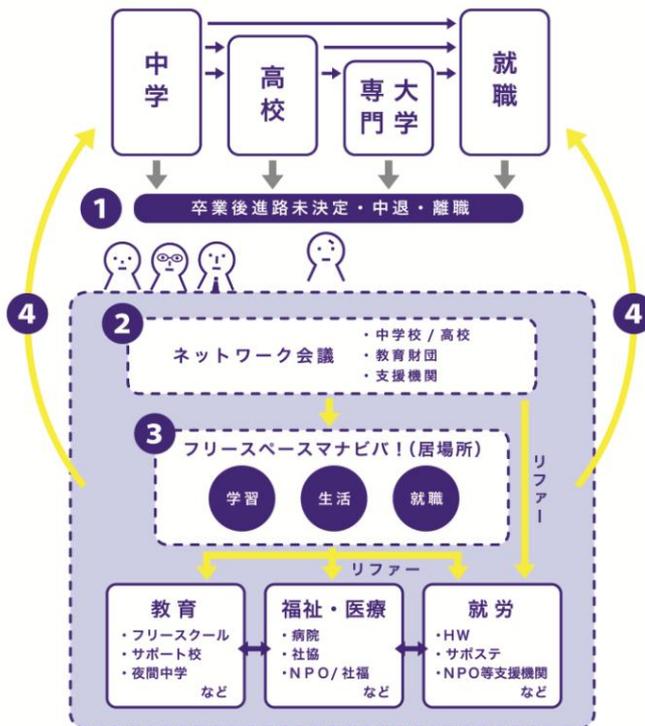
< 従来の支援体制 >



- 1 学校、就職という「社会」からドロップアウト。
- 2 自ら進路を決定できる子どもは少なく、親、教師、CW等が進路を模索。しかし本人に最適な進路、支援機関につなぐことは難しい。
- 3 うまくいけば…
本人の希望や状態に応じて教育、福祉医療、就労といった支援を受け、社会復帰に向けてのプロセスを歩むことができる。
うまくいかなければ…
社会からの孤立、または、居場所を求めてさまようことに。

※社協…社会福祉協議会
社福…社会福祉法人

< 本事業が目指す支援体制 >

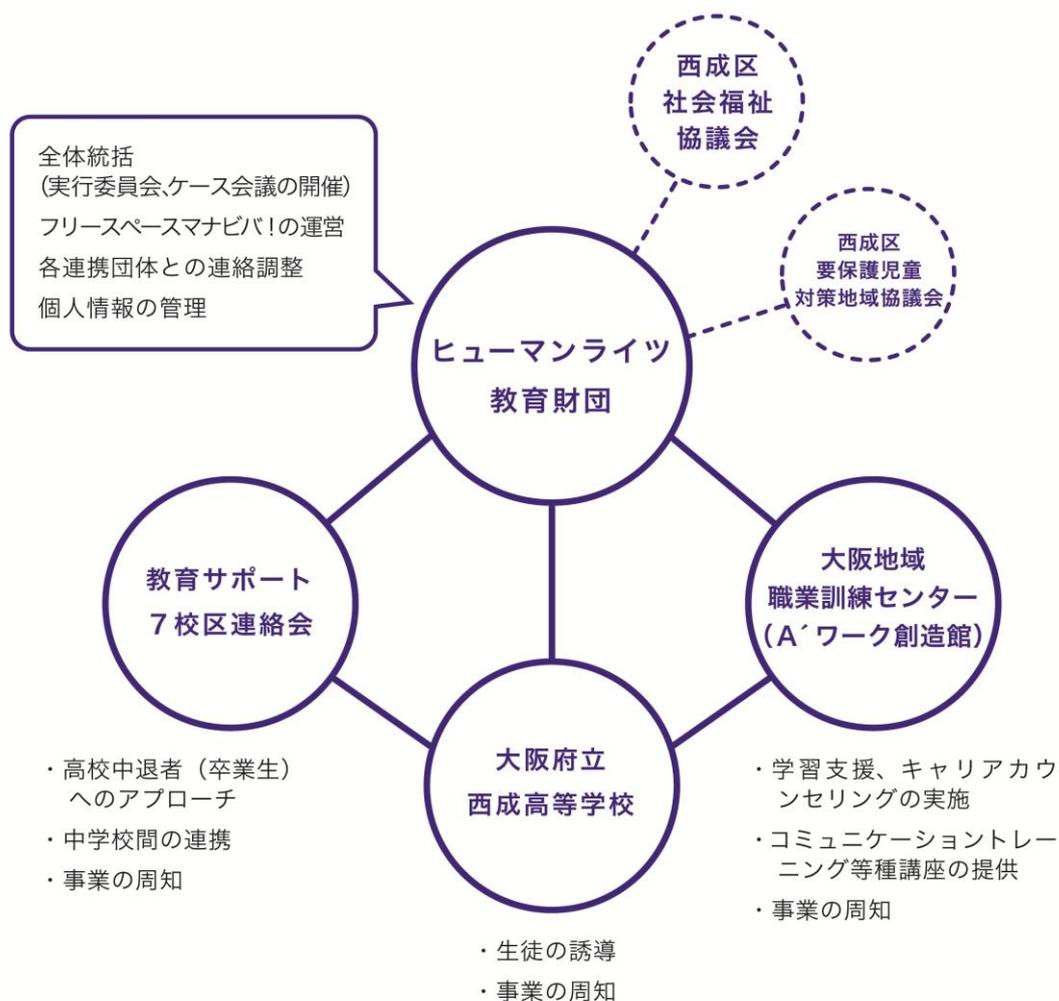


- 1 学校、就職という「社会」からドロップアウト。
- 2 ドロップアウトした子どもの情報をキャッチ、関係者間で共有し、緊要度や要望に応じて対応を協議し、必要があれば専門機関へリファアー。
- 3 「どこへも行き場がない」「何もないことがない」子どもを、「マナビバ!」で受け入れ、学習、生活、就労支援を行う。
- 4 本人の希望に応じ、再入学、高卒認定受験や、アルバイト含む就労などをめざす。

(3) 実施体制

- ①対象者 高校中退後あるいは離職後、定職に就いていない若者等
- ②対象地域 大阪府下全域（主に西成地域）
- ③周知活動 チラシ 5000 部を作成し、区役所や公立高校、中学校や大阪府下の公共施設などに配布
- ④実施場所 大阪市西成区長橋 2 丁目 5 番 33 号 市民交流センターにしなり 210 号室
- ⑤実施団体 一般財団法人ヒューマンライツ教育財団
- ⑥連携団体 大阪府立西成高等学校
教育サポート七校区連絡会
大阪地域職業訓練センター（A'ワーク創造館）

「フリースペース マナビバ！」支援ネットワーク概要



(4) 年間スケジュール

| 年間 スケジ ュール | 実行委員会 計2回 | 担当者 会議 計5回 | フリースペース マナビバ! 計40回 | マナビバ! イベント 計6回 (内1回中止) |
|------------------|--------------|------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 10月 | 10/16 | | | |
| 11月 | | 11/4 | 4 6 11 13 18 20 25 27 | |
| 12月 | | 12/5 | 2 4 9 11 16 18 25 | 12/25 |
| 1月 | | 1/9 | 6 8 13 15 20 22 27 29 | 1/22 |
| 2月 | | 2/6 | 3 5 10 12 17 19 24 26 | 2/12 |
| 3月 | 3/27 | 3/13 | 3 5 6 10 12 17 19 24 26 | 3/12 3/10 3/6 |

2. 取組内容

(1) 支援ネットワークの新規構築

様々な課題を抱えた若者の情報を一元的に管理できる支援ネットワークを構築し、大阪府下において高校中退者等からの相談に円滑に対応できる体制を構築しました。ヒューマンライツ教育財団を中心に、各団体等が地域の資源と課題を共有し、有機的な連携が図れるように支援しました。また、引きこもる可能性が高い高校中退者や居場所がない若者の支援のため、ヒューマンライツ教育財団を中心として教育と福祉の連携を促進しました。

ヒューマンライツ教育財団が中心となって、実行委員会と担当者会議を開催しました。

各団体の代表者が集まる実行委員会は事業本格開始前と年度末の2回開催しました。ここでは主に事業全体の方向性の確認や各団体の事業への関わり方の確認・調整を行いました。

担当者会議は、基本的にひと月ごとに開催し、地域の関係機関における情報共有や地域における固有の課題、個別ケースへの支援方針の検討や、課題解決、課題発生の防止に向けた協議を行いました。担当者会議へはフリースペースの主担当も出席し連携を密にとっていきました。

地域における様々な課題を的確に把握し、援助を必要とする若者の早期発見及び迅速な対応を行うための連携体制を構築するとともに、会議の構成員の資質向上を図りました。必要に応じて個別ケースの支援方針に関する協議を行いました。

主催：ヒューマンライツ教育財団

構成：ヒューマンライツ教育財団・教育サポート7校区連絡会・Aワーク創造館・西成高等学校



『担当者会議の議題例』

- ◇ 広報物（チラシ・新聞など）の内容確認
- ◇ 広報先と方法の検討
- ◇ 当事者へのアプローチ方法の検討
- ◇ 各イベントの企画・検討
- ◇ 問い合わせ状況の確認
- ◇ 当事者・支援者の見学状況の確認
- ◇ 各学校の中退の恐れがある生徒・中退した生徒などの情報共有
- ◇ ケース毎の対応検討
など

『居場所誘導候補者リスト例』

| 名前 | 年齢 | 最終学歴 | 中退理由 | 居場所参加 | 参加理由 | 経過 |
|----|----|------|-----------|-------|----------------|-------------------|
| A | 20 | 高校中退 | いじめ・本人の特性 | ○ | 居場所・仲間作り | 就職活動中 |
| B | 20 | 高卒 | — | ○ | 進路手続き支援 | 職業訓練受講中 |
| C | 16 | 高校中退 | 思春期による反抗 | ○ | 進路手続き支援・学習支援 | 父親の手伝い |
| D | 16 | 高校中退 | 本人の特性 | ○ | 居場所・学習支援 | 後見人制度手続き・復学予定 |
| E | 17 | 高校中退 | 経済的理由 | ○ | 進路相談 | 通信制高校の説明会へ誘導 |
| F | 16 | 高校中退 | — | — | — | アルバイト中 |
| G | 16 | 高校中退 | — | — | — | アルバイト中 |
| H | 16 | 高校中退 | — | — | — | 定時制高校に転入 |
| I | 16 | 高校中退 | ? | 予定 | 居場所 | 引きこもり中のため居場所に誘導予定 |
| J | 16 | 高校中退 | — | — | — | アルバイト中 |
| K | 16 | 高校中退 | — | — | — | 定時制高校に転入 |
| L | 16 | 高校中退 | — | — | — | 居場所に誘導予定 |
| M | 18 | 高校中退 | 本人の特性 | — | — | 未定 |
| N | 18 | 高校中退 | — | — | — | 未定 |
| O | 20 | 大学中退 | 意欲喪失 | ○ | 居場所・就職支援 | アルバイト中 |
| P | 17 | ? | ? | 予定 | 来所時に確認 | 見学予定 |
| Q | ? | ? | ? | 予定 | 来所時に確認 | 見学予定 |
| R | 21 | 高卒 | — | ○ | 学習支援・就職支援・進路相談 | 職業訓練受講予定 |

（２）居場所の開設～「フリースペース マナビバ！」～

学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない若者及びその保護者とともに、一人ひとりが安心して過ごせる居場所をつくり、学校外の多様な学びや育ち・生き方を支援し、自己肯定感を取り戻す人間関係を育む環境を創造（ユースサービスの関係構築）することを目的として、「フリースペース マナビバ！」を開設、運営しました。

- ・誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営
- ・中退するかどうかや中退した後でどうするかなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動
- ・フリースペース利用者による自主企画・活動の支援に係る事業
- ・進路相談（キャリアコンサルティング）
- ・保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会および情報の提供・発信活動に係る事業



「フリースペースマナビバ！」（以下、「マナビバ」）は、高校中退者や離職した後定職についていない若者等の居場所です。地域の若者が、気軽に立ち寄れるよう、西成地域の各学校（小・中・高等学校）の中心に位置する「市民交流センターにしなり」の一室を借りて運営しました。

開設にあたって

49㎡の会議室で行っているのですが、当初、事務的な印象が強かったのですが、机の配置を変えたり小物で飾ったり、ラグを引いて裸足で座れるスペースを作るなど親しみやすさや安らぎを感じられるような空間づくりを心がけました。この場所でスタッフと「マナビバ」の参加者が、毎週火・木曜日協力して日々を過ごしました。スタッフは、連携団体の一つである「A⁺ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）」で、若年者就労支援事業や各種職業訓練事業に従事している有資格者（教員免許、キャリアコンサルタント、産業カウンセラーのいずれかを有する1名）を配置し、大学院生のアルバイトと合わせて2名が「マナビバ」利用者への対応を行いました。

個人の希望を尊重した活動内容

「マナビバ」では決められたカリキュラムがなく、利用者が自分で一日をどのように過ごすかプログラムを組みました。やってみたいことについて、相談を重ね、利用者同士一緒に活動することもありましたが別々に、個人がやりたいことに取り組むことが多かったです。

敷居をできるだけ低く保つために、遊びの要素をふんだんに取り入れています。学力向上を希望してやってきた利用者には、個別のニーズに応じた学習支援も行いました。例えば、「数学と英語の勉強がしたい」という希望でやってきた、16歳男性の利用者さんがいました。話を聞くと、小学校、中学校と不登校気味で、十分な基礎学力が定着していない様子でした。そのため、いくつかの小テストを作成し、各科目のどの部分が理解できていて、どの部分が理解できていないのかを、把握するところからスタートしました。英語でいうと、単語の意味は解るけれど、スペルが解らないとか、be動詞は理解できているけれど一般動詞の過去形や複数形がよく解らないといった、重点課題が見えてきました。できるだけ、モチベーションを高く保つために、難易度の低い問題から解いてもらい、正解する喜びを味わってもらうことを大切にしながら、学習支援を進めていきました。彼の場合は、諸事情で長く通うことがかなわなかったのですが、今までただ「とにかくわからない」状態で、何から手をつけて良いかわからない状態だったのが、「どこまでが理解できていてどこからが理解できていないのか」を把握したことで、学習の取っ掛かりができたのが、大きな進歩だったのではないかと考えています。

また、就職希望や、職業訓練受講希望の利用者には、進路相談も随時行いました。例えば、高校卒業後無業状態が続いていた20歳男性の利用者が、「親に勧められて、受講しようと思う」と言っていて、大阪府の若年者向け職業訓練のパンフレットを持ってきました。そこで、キャリアコンサルティングを実施し、受講に対しての動機や目的を、整理していきました。当初は「親が勧めるから」という受身的な動機を口にしていたのですが、話を進めると、自分の親と同じ職種で、興味を持ったこと、若年者向けということで、経験の少ない自分に合ったカリキュラムであると考えたことなど、きちんと自分で判断して希望したことがわかりました。そこで、職業訓練の選考試験を受けるにあたって必要な「応募書類」を一緒に作成し、面接練習などを行いました。彼はその後、選考試験を無事通過し、6か月間の職業訓練に通うことになりました。現在も、毎日休まず通っているようで、専門的な知識が少しずつ身についてきたと嬉しそうに語ってくれました。

多様なニーズに応えるための工夫

「マナビバ」では多様な人を受け入れることを大切にしています。それにより、「マナビバ」に参加する頻度も生徒が自分のペースに合わせて決定できます。「マナビバ」は毎週火・木曜日の10時から16時まで開放していますが、毎回のように来る生徒からひと月に1回参加する生徒まで様々でした。

参加者が興味を持ちやすいように各設置ツールも多様でした。例としてはボードゲームや

キャリアコンサルティングで使用するアセスメントツール、または調べものや個別学習や就職活動の書類作成等に対応できるタブレットPCやノートパソコンなどを準備していました。参加者はこれらを自由に使用する事ができ、必要であればスタッフが指導やミニ講座を開いたりすることもありました。(参考資料：フリースペースマナビバチラシ参照)

広報活動

「フリースペース マナビバ！」の開設にあたって、連携団体が各方面に広報を行いました。各学校や、近隣地区の保健福祉センター、子育て支援ひろば、ひきこもり親の会など、当事者、保護者に届くように、チラシを郵送あるいは持参にて配布しました。

地域のイベントなどにも積極的に参加してマナビバの告知を行っており1月には第11回西成区地域福祉アクションプラン区民フォーラム『あつまれ☆にしなりファミリー！！』に出展。チラシや新聞などの展示・配布や当日イベントの告知時間を利用して活動報告と宣伝などを行いました。



あつまれ☆にしなりファミリー

それ以外にも積極的な広報活動として定期的なフリースペースマナビバ専用 Web サイト、専用 Facebook ページを作成し、活動内容やイベント告知など、情報の更新などを随時行いました。

フリースペースマナビバ専用 Web サイト *1

高校生と高校中退者のためのフリースペース

マナビバ!

トップページ HOME | プログラム案内 Service | マナビバ!とは Company | お知らせ Information | スタッフブログ

自由な居場所
いつでも立ち寄り自由に楽しめる場所です。

進路サポート
高卒認定試験対策や高校再入学など個別対応・個別学習支援で応じます。

就職サポート
履歴書の作成や面接練習。ハローワークの同行など必要な内容を応じます。

お問い合わせはこちら
お気軽にご相談・お問い合わせ下さい。

【フリースペースオープン日程】
毎週火・木曜日
10:00~16:00
(祝日、年末年始等はクローズ)

【問合せ】
(平日10:00~18:00)
TEL: 06-6568-1840
MAIL: info2@humam-ref.jp

*1 Web サイトアドレス (<http://kokokara.hotcom-cafe.com/>)

「マナビバ」を体験してもらうためのイベント

より広く事業を周知し、興味を持ってくれた人に「マナビバ」を体験してもらうため、イベントを月に1回程度開催しました。(クリスマスプラモパーティー、たこやきパーティーなど) 普段はあまり交流のない参加者同士が、会話したり一緒に作業する良い機会となりました。また、3月には「マナビバ春の文化祭」として、全3日の日程でイベントを開催しました。より多くの若者に「マナビバ」の雰囲気を知ってもらうことと、今後の生活に役立ててもらうことを目的に、ものづくり分野や表現分野などの5つの講座・ワークショップを、講師を招いて実施しました。延べ31名の参加者が集まり、引き続き、「マナビバ」を利用したいという声も聞かれたので、今後も定期的に、このような若者に寄りそったイベント等を実施していきたいと考えています。(参考資料：マナビバ春の文化祭チラシ参照)



クリスマスプラモパーティー

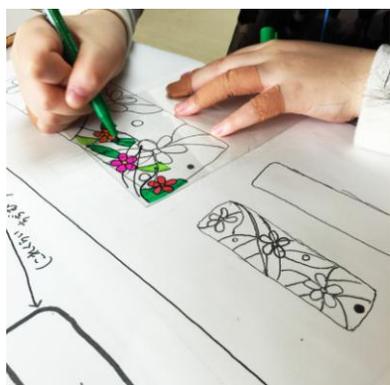
たこやきパーティー



マナビバ春の文化祭



世界に一つ！
オリジナル革小物をつくろう



プラバンで☆カラフルアクセサリーづくり

スマホカメラで劇的
センスアップ
写真講座



3. 対象者の反応と変化

(1) ケース例

「フリースペース マナビバ！」には、想定以上に、多様な背景を持った若者が参加者として集まってきました。今年度、実数としての利用者は7名、来訪予定の若者は7名でした。高校年代の若者は（付き添い人の有無にかかわらず）来訪の予定を組んでも実際に訪れるとはかぎらないため、辛抱強く待ち関係性の構築を継続する姿勢が必要となりました。

全体を統括すると、当初予定していた対象者像と比較して、課題を多く抱えた（それも本人による課題ではなく、家庭環境などに起因するものが多い）参加者がほとんどでした。そのため実際の支援活動においては、居場所だけの関わりだけではなく保護者、（元・現）担当教員、担当ケースワーカー、担当支援員などとの話し合いが不可欠でした。今年度、6か月間の事業の中で完全に解決するような課題ではなく、来年度以降もこの事業を継続し参加者全員と関係性を持ち続け支援を続ける事が必要であると、改めて認識しました。

以下では、いくつかの特徴的なケースを紹介させていただきます。

Aさん（16歳・男性）

ケースワーカーからの紹介で参加。高校一年生、中退（予定）。母子家庭の生活保護世帯。ケースワーカー相談時、転入学を考えるが転学先が見つからなかったため高校中退後の進路相談を行うためにケースワーカーと居場所に来訪。

来訪初日に進路相談を行ったあと本人の状況や家族の課題の把握に努めました。担当ケースワーカー以外にも幼いころから当事者と関わってきているケースワーカー、母親、担任教員らと連絡を取り合って状況の整理・統合を行いました。その結果、全日制高校への再入学は困難なため定時制高校への転学を検討。転入学時の学力検査の為の学習スペースと居場所としての利用を勧めました。

このケースで大きな問題となったのが当事者の家庭は生活保護世帯であったことでした。生活保護世帯の子どもが学校を中退した場合、再入学の際にかかる費用の負担などがハードルとなり、当事者が取れる選択肢としての進路は非常に限られたものしかなく、かつそれは16歳の若者には複雑すぎていました。

結果としてケースワーカーや担任教員からの複雑な手続きの説明に当事者はついていく事ができず、転入学の進路を諦める結果となりました（当事者曰く「めんどくさくなったのでやめました」）。その後は父親の仕事の手伝いをしながら日々を送っています。

現在も「マナビバ」の支援員とも連絡は取り合っており、「将来はりっぱな職人になりたい」と言っており、その他にも日々の他愛もないような細かな相談ごとをもちかける事が多いとのこと。当事者も日頃の生活で気軽に話をできる年上の兄弟のような先輩ができたことが何より嬉しいようでした。

今後は継続して連絡を取り合い、困ったことがあったらいつでも相談に乗るような、文字通り彼にとって「居場所」として在り続けることが必要であると思われます。

Bさん（16歳・男性）

ケースワーカーからの紹介。高校一年生で進路悩み中。施設育ちで現在は生活保護を受給しつつグループホームに住んでいる。ケースワーカー相談時、高校で問題を起こしたことで不登校となり留年か転学か迷っている。今後の進路相談を行うためにケースワーカーと居場所に来訪。

来訪初日にインテーク面談を行ったあと本人の状況や課題の把握に努めました。担当ケースワーカー以外にも、教頭、担任教員らと連絡を取り合って状況の整理・統合を行いました。その結果、通っている高校への復学を検討。復学時の留年試験の為に学習スペースと居場所としての利用を勧めました。

このケースは大きな問題をひとつにまとめることはできないほど複雑なケースでした。両親がいないこと、本人の障害・病気、恒久的な住居がないことなど多様な問題がからみあった状態であることがわかりました。学校でも、家でも安心して過ごす事ができる場所が本人にはなかったため居場所は本来の居場所以上のケアを行うためにシェルターとしての役割をこのケースでは担っていました。

生活は順調なように思えましたが当事者がグループホームで問題を起こした事で退去しなくてはいけなくなり、社会的入院として次の住むところが決まるまで入院する運びとなりました。当事者が進路選択するのは難しいため後見人制度の活用を検討しており、現在は来年度からの復学と新しい住居に向けて療養しています。

今後は継続して各関係者等と連絡をとりあい、当事者が困ったことがあったら相談に乗り、嫌なことがあった時のシェルターとして居場所の利用ができる状態を継続して周りの大人たちが見守っていく支援が必要であると思われます。

Cさん（17歳・女性）

ケースワーカーからの紹介。高校一年生で中退。おじと弟と三人暮らし。フルタイムのアルバイトで家族全員の生計を立てている。将来的な正規就職を考えて高卒資格がほしいが現在のアルバイトはやめたくないの普通の高校に通うのは難しく、どうするのがいいか相談したいとのことでケースワーカーと居場所に来訪。（※当事者は生活保護を受給していない）

当事者の希望としてできるだけ簡単に高校卒業資格を取りたいとの希望でした。高等学校卒業程度認定試験という言葉に引かれてどういったものかを具体的に知りたかったようで説明を行いました。しかし、その資格では、本人が希望している高卒者向けの正社員雇用には繋がらないため、通信制高校への転入を勧めました。説明に納得したようで、保護者と一緒に高校転入説明会に参加することとなりました。

今後は当事者の希望に合わせて通信制高校の自学自習の方針に合わせた学習スペースとしての事業の活用と、気軽に何でも相談できる居場所として関係を続けていくことが必要であると思われます。

4. 成果

(1) アンケート結果より

今事業においては「フリースペース マナビバ！」の継続利用三日以上の参加者にアンケートの回答を依頼する形としたものと、「マナビバ春の文化祭」においては各講座の最後にアンケートの回答を依頼しました。そのため居場所事業についてのアンケートでは予想より継続した日数を利用する参加者が少なかったため、アンケートの回収がうまくいかなかった事が反省点です。対してイベント形式のアンケートについては100%の回収率を達成することができました。

以下は実施した2種類のアンケート結果です。

『フリースペース マナビバ！利用者へのアンケート結果』

(参考資料：アンケート様式(居場所)参照)

| | |
|-------|-------|
| 実利用者数 | 7 |
| 回答者数 | 3 |
| 回答率 | 42.9% |

Q：フリースペースマナビバの内容全般について、ご満足いただけましたか(選択式)

| | |
|-------|---|
| とても満足 | 2 |
| 満足 | 1 |
| やや不満足 | 0 |
| 不満足 | 0 |

Q：どのような点が良かったですか(複数選択可)

| | |
|---------------------|---|
| 役立つ情報が得られた | 2 |
| 日頃の生活や活動に役立った | 0 |
| スキルアップにつながった | 1 |
| 他の参加者との交流・情報交換が図られた | 1 |
| 抱えていた問題・不安の解消につながった | 1 |
| その他 | 1 |

【寄せられたコメント】

- 他の参加者やスタッフとのコミュニケーションが良かった
- 無料で参加可能なところが良かった
- 入室・退室が自由なところが良かった
- 進路相談・就職支援が良かった

『マナビバ春の文化祭イベント参加者へのアンケート結果』

(参考資料：アンケート様式 (居場所) 参照)

| | |
|-------|------|
| 実利用者数 | 31 |
| 回答者数 | 31 |
| 回答率 | 100% |

Q：春の文化祭プログラムの内容全般について、ご満足いただけましたか (選択式)

| | |
|-------|----|
| とても満足 | 20 |
| 満足 | 11 |
| やや不満足 | 0 |
| 不満足 | 0 |

Q：どのような点が良かったですか (複数選択可)

| | |
|---------------------|----|
| 役立つ情報が得られた | 18 |
| 日頃の生活や活動に役立った | 14 |
| スキルアップにつながった | 11 |
| 他の参加者との交流・情報交換が図られた | 9 |
| 抱えていた問題・不安の解消につながった | 3 |
| その他 | 6 |

【寄せられたコメント】

- 考えている時間が楽しかった。
- 他の参加者と楽しく取り組むことができた。
- やってみて自分でもできた時うれしかった。
- 分かりやすい説明だった。
- これからの趣味ができそう。
- 各人の特有のセンスが分かり会話が弾んだ。

(2) 成果と考察

今年度は事業実施の初年度ということから、西成地域を中心に比較的狭いエリアの対象者をターゲットとしました。実施形態も自由参加型のフリースペースという形式を選択したのは、対象者がいつでも好きな時に参加できて帰る事もできる縛りのない自由な居場所でないかと参加者が見込めないのではないかと懸念からです。また、対応できる人数にも制限があったことや居場所自体の場所が駅から遠いなど課題も多く見受けられました。しかし高校を中退した若者に「定期的に通う場所（居場所）」を提供することで、生活習慣が改善されること、学習意欲や就労意欲を高められること等の効果が得られたと考えられます。また、高卒認定試験や定時制・通信制高校への入学をサポートすることで、参加者が「中卒」という学歴の壁を乗り越え、これまで挑戦できなかった就職や進学への道が開かれることが、大きな効果であると考えられます。

支援ネットワークの中で名前があがってきたケースは20名程度でしたが居場所利用者には繋がらなかったものの、今までの各団体の手からはこぼれおちてしまっていた若者ばかりでした。今年度は幸運な事に各ケースの若者が進路先でのミスマッチも少なくドロップアウトすることもなかったため、「マナビバ」のサービスが必要ない方が多かったです。しかし、それでも今まではその「大丈夫」ということさえわかっていなかったことが「大丈夫」ということがわかったことで、担当教員やケースワーカーにも安心を感じることができたことを感謝いただきました。

今回の事業においては特に支援ネットワークと居場所が協働していることが他の事業との大きな違いでした。対象者のそばにいる人が対象者に困っている事がないかを話しかけるには、第一候補となるその受け皿が必要であったからです。そしてその対象者のそばにいる人が起こした行動が制度の狭間にいる若者たちへの新しい支援ネットワークを構築することができました。それにより単独では対処しきれない対象者の発掘に成功した事がなによりに成果だったと考えられます。

高校中退者が生活習慣や学力をつけることは、就職し働き続けることに繋がり、引きこもり状態に陥ることを防ぎます。ひいては、経済的に自立し、生活保護に頼らずとも生活できる力を身につけることにつながり、現在問題視されている「貧困の連鎖」を断ち切る事になると考えます。今回の事業は半年間程度の取り組みでしたが「マナビバ」まで来てくれた対象者は社会参加率100%を達成し、全員がポジティブな変化が見られる結果となりました。来年度以降も継続した事業展開を行い、よりいっそうのサービスの充実を図っていきたいと考えています。

5. 新年度に向けての課題と展望

平成 26 年版「子ども・若者白書」によると、平成 25 年の 15~19 歳の失業率は 6.4%、20~24 歳の失業率は 7.0%、非正規雇用率は 32.3%と若年層の雇用情勢は厳しい状況が続いています。義務教育課程を卒業した若者支援を公共から委託されて事業を行っている若者サポートステーションの利用者においても平成 24 年度高校中退者は 876 人の支援しか行えておらず、平成 24 年度の国公立高等学校中途退学者数は 5 万 2000 人と 1.7%以下のフォロー率となっています。一方で児童の包括的なサポートを実施している要保護児童対策地域協議会は原則 15 歳までを対象者としており、高校中退者や中学卒業後無業者に対してはサポートできていないのが現状です。そして、この事業で支援を行っている対象者は制度の隙間で十分な支援を受けていないことが今回の事業を通してより明確化されました。中学校教員、高校教員、ケースワーカー、支援団体、対象者の家族は対象者が確かに存在している事はわかっていますが見つけることが難しく、高校世代の当事者が相談に来ることも大変稀です。また、もしケースが上がってきたとしてもほとんどが有料のサービスとなるため家庭が利用料を支払う余裕がないといったことが現状の課題として挙げられます。

本事業においては、支援ネットワークの構築とそれにともなった居場所の創設からの個別支援など、多岐にわたる活動に取り組みました。そしてこれら全てのサービスを利用者は無料で受ける事ができ、参加の頻度は利用者の希望に合わせて、参加資格（住んでいる地域や学生であるかどうかなど）も必要でない事で垣根をできるかぎり低くしたことにより多くの理解を得られたと思われまます。

今年度は事業実施の初年度ということから、潜在的ニーズ把握も併せて行いました。それにより今後はより拡張した事業展開を行っていくことが必要であると思われまます。課題が多い対象者のためにより専門性をもった対応と目的意識をもった居場所への参加を促すために、臨床心理士のインテークと定期的な面談の導入を検討します。しかし、これはあくまで継続利用の場合にかぎることとしますが、（一時・継続利用の判断は初回来訪時に次回以降の利用の意思をケースワーカーが当事者に確認する）あくまで、現在の手軽に居場所として利用できるスタンスは維持します。継続利用の場合は目的を明確化し、定期的に臨床心理士の面談を重ね、目標に向かって進んで行けるようなサポート体制を居場所内での支援チームと随時開催の個別ケース会議で個別支援する仕組みを求められます。

また、平成 27 年度から大阪府内の公立高校（20 校程度）にて『高校内における居場所のプラットフォーム化事業』が開始されます。これは学校内の利用者負担はなしでソーシャルワーク付きの居場所となります。しかし、中退者や学校に登校できない若者には活用が難しい事業です。そこで、今後居場所事業では『高校内における居場所のプラットフォーム化事業』と連携した活動を行い、学校外の利用者負担はなしでソーシャルワーク付きの居場所として事業展開を行っていきたいと考えています。居場所の対象者だけではなく、その家族を含めた社会接続を行わなければ根本的な解決策を導き出すには不可能だからです。

● 今後の「マナビバ」での体制案

【今年度からの変更点】

「マナビバ」チームでの支援

(CWと学生2名が協力して対象者を支援)

データ収集の徹底

(徹底したケース会議開催のため)

学生の追加

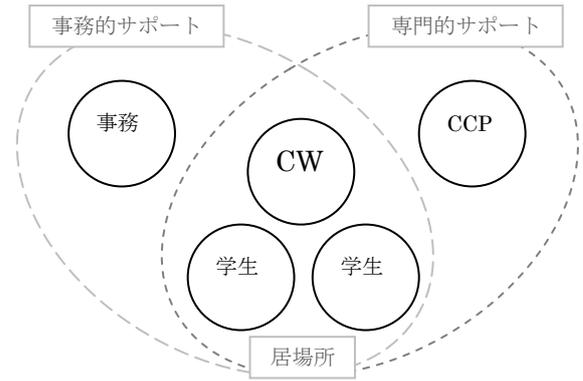
(課題の多い対象者が多い為、視点の追加)

CWと事務の業務分担

(日々のケースワークを重点的に行う)

臨床心理士のインテーク

(専門性の確保)

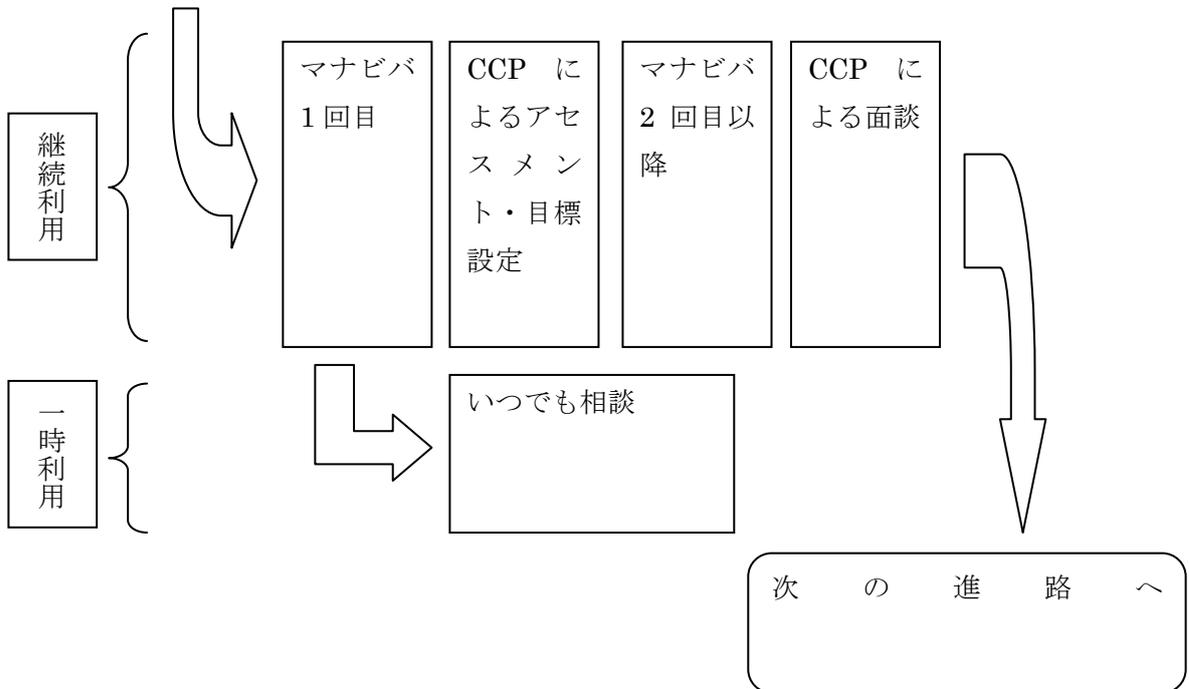


*CW
ケースワーカー

*CCP
臨床心理士

【今後の「マナビバ」利用時の流れ】

全日制、定時制、通信制高校、中学校、
ケースワーカー、支援機関、家族



参考資料

| | |
|--------------|----------|
| マナビバチラシ | p27-p28 |
| マナビバ春の文化祭チラシ | p29-p30 |
| アンケート様式（居場所） | p31 |
| アンケート様式（文化祭） | p32 |
| 新聞 5 部 | p33- p37 |



おしゃべりや悩み相談、ボードゲーム、パソコンやタブレット、
学習に関するサポートや就職サポート…
高校中退者のためのフリースペースが西成に OPEN !

対象者：高校中退者 ※不登校の生徒さんや中卒後進路未決定の方でも大丈夫です
実施日時：毎週火・木曜日 10:00～16:00
実施場所：市民交流センターにしなり 210号室
問い合わせ / 申込先：一般社団法人ヒューマンライツ教育財団 TEL：06-6568-1840
MAIL：info2@human-ref.jp 担当者：竹本

利用料
無料

★ マナビバ! とは??

開いている日は、いつでも立ち寄れて、ボードゲームをしたり、パソコンやタブレットで遊んだり、おしゃべりしたり、自由に過ごせます。また、スタッフが、いろいろな悩み相談にも乗ります。友達のこと、家族のこと、恋愛のこと、進路のこと…、「ちょっと愚痴りたい!」「誰にも言えないけど誰かに聞いてほしい話がある!」という人、いつでも遊びに来てください。

★ 学習・進路面のサポート

希望に応じて、個別学習や、高卒認定試験受験、進学など、学習に関するさまざまなサポートを行います。塾とちがって、自分のやりたい科目、自分のつまずいたところから気軽にスタートできます。現役大学生のサポーターが、皆さんの「勉強したい!」を応援します。

★ 就職したい人へのサポート

「就職したい」「アルバイト始めたい」という人には、就職サポートもしています。一緒にハローワークへ行ったり、面接の練習や履歴書の書き方など、何でもお手伝いします。

これらのサポートはすべて「無料」です!「中退したけど、これからどうしよう」「今は何にもしたくないな」そんな毎日過ごしている人、ちょっと息抜きに、誰かと話して、新しいことを見つけに、ぜひマナビバ!に来てくださいね!



フリースペース マナビバ!

Web: <http://kokokara.hotcom-cafe.com/>

〒557-0025 大阪市西成区長橋2丁目5番33号
市民交流センターにしなり 210 号室

実施日時: 毎週火・木曜日 10:00 ~ 16:00

担当者: 竹本

実施団体: 一般社団法人ヒューマンライツ教育財団

連携団体: A' ワーク創造館・教育サポート7校区連絡会・
大阪府立西成高等学校

お申込み・お問い合わせ

tel: 06-6568-1840

MAIL: info2@human-ref.jp

お待ち
しています



担当 竹本

フリースペースマナビバ！ 春の文化祭

日にち：2015年3月6・10・12日
場所：A'ワーク創造館
(大阪地域職業訓練センター)

15～25歳位
までの若者
あつまれー！
高校生も歓迎！

西成区にある、若者のためのフリースペース「マナビバ！」で、春の文化祭を行います！
「フリースペースってどんな場所？」というのを、気軽に体験してもらえるように、楽しい講座やワークショップを開催します。お友達どうしの参加も、おひとりでの参加も、大歓迎！優しいスタッフや講師が、みなさんをお待ちしています。何か新しいことをやってみたい人、居場所を探している人、自分を表現したい人、この機会にぜひ「マナビバ！」へ来てみませんか。

① 世界に一つ！
オリジナル革小物をつくろう

② ブラバンで☆
カラフルアクセサリーづくり

③ 古着リメイク☆
こものづくり

④ 初心者でもおいしく！
お料理教室

⑤ スマホカメラで
劇的センスアップ写真講座

and more...

参加費無料！
**楽しい体験講座や
ワークショップが5つ！**

「マナビバ！」って
どんなところ？

週2回、西成区で行われている、高校を中退した人や、中学・高校を卒業したあと進路が決まっていない人のためのフリースペースです。学習や、アルバイト、生活面の相談やサポートを専門スタッフがお手伝いしています。今の生活やこれからのことに不安や悩みを抱えている人、何もすることないから何かしたい！と考えている人は、ぜひ利用してください。利用料はすべて無料です。

主催：一般財団法人ヒューマンライツ教育財団 独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

アンケート様式（居場所）

【ユーザーズナビに関するアンケート】

ユーザーズナビのご利用ありがとうございます。
 このアンケートは、ナビのご利用の参考とさせていただきます。本サービスの改善に必要なお知らせ（独立行政法人独立行政機構（WAM）が行う社会福祉施設訪問事業）の事業実施の参考とすることを目的に行うものです。
 ご協力をお願いします。

質問の答えは○を塗りつぶしてください。（例：○、○、○、○）

① ユーザーズナビの内容全般について、ご満足いただけましたか。
 （どれか1つ選んでください）

とても満足 満足 やや不満足 不満足
 ~~~~~       ~~~~~

② ①で「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点が良かったですか。  
 （いくつでも選べます）

役立つ情報が知れた  
 日頃の生活に役立った  
 スマホアプリができた  
 他の人とコミュニケーションができた  
 不安や問題の解消につながった  
 その他（良かったところを教えてください）

画面に続きます→

③ ①で「やや不満足」「不満足」を選んだ方）どのような点が良くなかったですか。  
 （いくつでも選べます）

役立つ情報が知れなかった  
 日頃の生活に役立たなかった  
 スマホアプリができなかった  
 他の人とコミュニケーションができなかった  
 不安や問題の解消につながらなかった  
 その他（良くなかったところを教えてください）

④ ナビのご利用目的は何ですか。  
 （いくつでも選べます）

生活相談       連絡相談  
 勉強       進学・教習       高齢者支援  
 アルバイト       就業支援       イベント  
 友達づくり       遊び       居場所  
 なんとな       その他（      ）

⑤ 実施してみて印象に残った事は何ですか。  
 （いくつでも選べます）

おしゃべり（友達）       おしゃべり（スタッフ）  
 勉強（      ）       勉強支援（      ）  
 遊び（      ）       イベント（      ）  
 相談（      ）       その他（      ）

⑥ 今後したいこと、してほしいこと  
 （自由記入欄）

# アンケート様式（文化祭）

**【マナビ】春の文化祭に関するアンケート**

フリースペースマナビは、企画の文化祭への参加ありがとうございます。  
 このアンケートは、マナビ運営の参考とさせていただきます。また、事務局の気遣いによる新築（独立）や独立入籍（WAM）が行った社会福祉協議会（WAM）の事業活動の改善とすることを目的に行うものです。  
 ご協力をお願いします。

質問の答えは○を塗りつぶしてください。（例：□、□、□）

① 春の文化祭プログラムの内容全般について、ご満足いただけましたか。  
 （どれか1つ選んでください）

□とても満足      □満足      □やや不満足      □不満足

② ①で「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点が良かったですか。  
 （いくつでも選べます）

役立つ情報が知れた  
 日頃の生活に役立った  
 スキルアップできた  
 他の人とコミュニケーションができた  
 不安や問題の解消につながった  
 その他（良かったところを教えてください）

裏面に続きます→

③ ①で「やや不満足」「不満足」を選んだ方）どのような点が良くなかったですか。  
 （いくつでも選べます）

役立つ情報が知れなかった  
 日頃の生活に役立たなかった  
 スキルアップできなかった  
 他の人とコミュニケーションができなかった  
 不安や問題の解消につながらなかった  
 その他（良くなかったところを教えてください）

④ 今後したいこと、してほしいこと  
 (自由記入欄)

# 月刊ナビ新聞

No.01  
発行2014年11月  
一般財団法人  
こころのナビ  
教育財団

●ナビでは7月刊から12月刊まで毎月1回発行するナビ新聞を12月号まで発行予定です。ナビ新聞の発行はナビ編集部の責任で行われます。

## リリースパーティーOPEN!

●ナビでは、高校中退者(※不登校の生徒さんや中卒後進路未決定の方でもOK)のためリリースパーティーです。開いている日は、いつでもお越しください。ポードルームもご利用いただけます。ナビ新聞の発行も兼ねて、お祝いパーティーを開催いたします。また、ナビ新聞の発行も兼ねて、お祝いパーティーを開催いたします。また、ナビ新聞の発行も兼ねて、お祝いパーティーを開催いたします。また、ナビ新聞の発行も兼ねて、お祝いパーティーを開催いたします。

## チラシが完成しました!

●ナビでは、リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。

●ナビでは、リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。リリースパーティーのチラシが完成しました。



# 暇ならおいで!



ナビナビでは利用される方に合わせて活動を行います  
 好機サポート 勉強  
 学習支援 勉強  
 通話サポート カードゲーム  
 パソコン(貸します) 使い方  
 講座 カフェ(Surfaceroo)  
 などで楽しみませんか



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業  
 Supported by Social Welfare Assistance Project  
 (Welfare and Medical Service Agency)

## ナビパーティーどこ?

「ナビパーティー」は、市民交流センターにじやりの210号室にあります。  
 ☆住 所：大阪市西成区長橋2丁目5番33号 市民交流センターにじやり210号室  
 ☆実施日時：火・木10時～16時(祝日の場合は休み)



市民交流センターにじやり



210号室

## スタッフ紹介☆



たけもと



さいじ

ナビパーティーのスタッフです。ナビパーティーのスタッフです。ナビパーティーのスタッフです。ナビパーティーのスタッフです。ナビパーティーのスタッフです。



●ウェブサイトもぜひチェックして下さい!  
<http://kokokara.hotcom-cafe.com/>  
 ●お問い合わせ  
 TEL: 06-6568-1840 (平日10:00~18:00)  
 MAIL: info@kokokara.jp (24時間OK!)



リリースパーティーのWEBサイトもOPEN!最新の情報はこちらからどうぞ!イベントカレンダーもご活用ください。

# 月刊ナビ新聞

No.02  
発行2014年12月  
一般財団法人  
ヒューマンケア  
教育財団

●ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。ナビナビは、ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。ナビナビは、ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。

●ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。ナビナビは、ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。ナビナビは、ナビナビが7月1日(木)に「ナビナビ」の発行をスタートしました。

## クリスマスプラモ！イベント

12月23日にナビナビ！でクリスマスパーティーを開催しました！12月18日のナビナビにてお申し込みをされた方々からご参加くださいました。当日は、クリスマスソングを聴きながら、クリスマスケーキ作りを行いました。また、クリスマスカード作りも行いました。当日は、クリスマスソングを聴きながら、クリスマスケーキ作りを行いました。また、クリスマスカード作りも行いました。



クリスマスパーティーの私物(録音テープなど)も活用して、クリスマスケーキ作りを行いました。当日は、クリスマスソングを聴きながら、クリスマスケーキ作りを行いました。また、クリスマスカード作りも行いました。



クリスマスケーキ作りを行いました。当日は、クリスマスソングを聴きながら、クリスマスケーキ作りを行いました。また、クリスマスカード作りも行いました。



クリスマスパーティーを行いました。当日は、クリスマスソングを聴きながら、クリスマスケーキ作りを行いました。また、クリスマスカード作りも行いました。



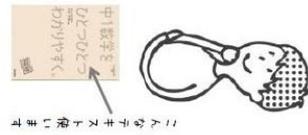
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業  
Supported by Social Welfare Assistance Project  
(Welfare and Medical Service Agency)

# 暇ならおいで！

ナビナビ！では利用される方に合わせた活動を行います。

## Q. ナビナビ！の学習サポートについて教えてください！

A. 学習サポートとは個別対応の学習支援です。塾とは違って手とり足とりのサポートは行いません。また、学習サポートは、学習サポートのスタッフが寄り添って勉強をサポートいたします。また、学習サポートは、学習サポートのスタッフが寄り添って勉強をサポートいたします。



## 1月22日にナビナビ！イベント第二弾を企画いたします！！

詳細はWEBサイトをご覧ください。

### フリースペースナビナビOPEN!

●ナビナビ！とは、高校中退者(※不登校の生徒さんや卒業後進路未決定の方でもOK)のためのフリースペースです。開いている日は、いつでも立ち寄って、ボードゲームをしたり、パソコンやタブレットで遊んだり、おしゃべりしたり、自由に過ごせます。また、スタッフが、いろいろな悩み相談にも乗ります。また、スタッフが、いろいろな悩み相談にも乗ります。

### ●ウェブサイトもぜひチェックして下さい！



http://kokokara.hotcom-cafe.com/  
●お問い合わせ  
TEL: 06-6568-1840 (平日10:00~18:00)  
MAIL: info@kokokara-hotcom-cafe.com

場所：市民交流センターに隣接した10号室  
ナビナビOPEN!  
11月22日(土)10:00~18:00 (無料)











発行日：2015年3月30日

発行者：一般財団法人ヒューマンライツ教育財団

〒577-0025

大阪府大阪市西成区長橋3-7-28

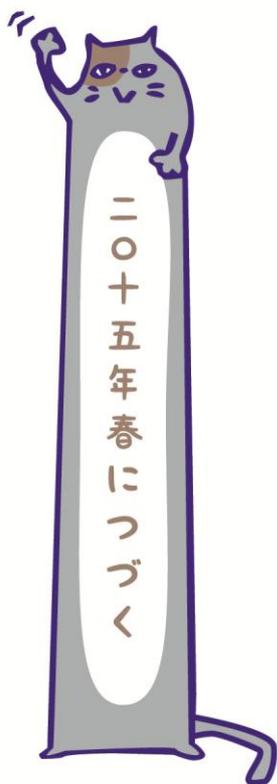
TEL：06-6531-1158

FAX：06-6531-1159

MAIL：info@human-ref.jp

WEB：<http://www.human-ref.jp/>

本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法上での例外を除き、禁じます。



二十五年春につづく